

令和
6年度

マイスター・ハイスクール事業及び マイスター・ハイスクール普及促進事業 成果発表会

1/31 金 10:00~14:10

オンライン配信
(ZoomによるWeb会議)

開催趣旨

産業界と専門高校(工業高校、農業高校、水産高校等)が一体となった次世代の産業人材育成の先進的取組の成果について、発信します。

マイスター・ハイスクール事業とは

第一線で活躍する企業人・技術者・研究者等の民間人材が学校に入り、産業界と連携した教育活動やカリキュラム開発等を実施することで、産学連携で人材育成を行うモデル事業(令和3年度より文部科学省委託事業として実施)



開催の流れ

- 10:00~10:05 : 開会挨拶
- 10:05~10:25 : 基調講演
- 10:40~11:55 : 成果発表(前半)
- 11:55~12:55 : 休憩
- 12:55~14:10 : 成果発表(後半)

基調講演

「今後の専門高校に求められる人材育成について」

- 今後、日本において「ものづくり」「農業・水産」「医療や介護現場」等を革新していく人材が強く求められていく。
- 今後の専門高校に求められる人材育成とは。

ベジタリア株式会社
代表取締役社長
小池 聡 氏



iSi電通アメリカ取締役副社長 COO 等を経て、シリコンバレーを中心にベンチャーキャピタリストとして活動したのち、東京大学EMP発ベンチャーとしてベジタリア株式会社を設立。農業経営とスマート農業、地方創生プロジェクトを実践しているベジタリア株式会社代表取締役社長小池聡氏よりお話しいただきます。

成果発表プログラム

着色の3校は最終成果発表

	A	B	C	D	E
前半	① 10:40~11:15 福井県	熊本県教育委員会・ 熊本県商工労働部	北海道教育委員会	新潟県教育委員会 (水産・農業)	埼玉県立大宮工業 高等学校(工業)
	② 11:20~11:55 学校法人一川学園 清和学園高等学校 (工業・家庭)	長崎県教育委員会	山形県教育委員会	宮城県教育委員会 (農業)	三重県教育委員会 (福祉)
後半	③ 12:55~13:30 仙台市立仙台工業 高等学校(工業)	宮崎県教育委員会 (農業)	兵庫県教育委員会 (工業)	北海道厚岸翔洋 高等学校(水産)	愛知県 (福祉)
	④ 13:35~14:10 —	静岡県 (工業)	—	静岡県立浜松城北 工業高等学校(工業)	—

主な 対象者

- 各都道府県・指定都市教育委員会等担当者
- 学校法人等ご担当者
- 高等学校関係者
- 産業振興・産業人材育成に係る各都道府県担当者

- 産業界
- 経済団体
- 農業協同組合
- 漁業協同組合 等

登録方法

下記アドレスまたはQRコードにアクセスし、登録ください。
<https://forms.office.com/r/6wewrvdstt>
※申込期日は令和7年1月24日(金)



事業成果発表概要

① 10:40～11:00(11:00→11:15講評)

A 福井県

テーマ

マイスター・ハイスクールで描く福井の地域人材育成デザイン

福井県には11校の職業系高校があります。その中で、福井県立の坂井高等学校と若狭高等学校の2校は、令和3年から3年間にわたり「マイスター・ハイスクール事業」の指定校として、地元産業界等と連携しながら地域人材育成の仕組みを築いてきました。この取組で得られた知見やノウハウを他の9校にも広げ、県全体に普及・促進する計画が進行中です。特に、9校の一つである福井県立武生商工高等学校を「成長モデル校」として位置付け、その成長プロセスを全職業系高校で共有し、さらなる発展を目指しています。

昨年度開催された「全国産業教育フェア福井大会」で培った11校の団結力と勢いをそのままに、全職業系高校が一丸となって、マイスター・ハイスクール事業に取り組む新たな展開がスタートしました！

さくらフェア
福井2023

B 熊本県教育委員会・熊本県商工労働部

テーマ

熊本県版マイスター・ハイスクールによる持続可能な産業人材の育成
～自律的に学ぶ生徒を育てるための学校と産業界の絶え間ない協働～

本県では、「産業界と学校が自律的・持続的に連携する仕組みづくり」に向けて、以下の3点を中心とした取組を行っています。

1. 県域・地域の産学官金とビジョンを共有した上での合意形成に基づく、一体的な産業人材育成エコシステム(プラットフォーム)の構築
2. 校内組織の校務分掌への位置づけと運営(校内の合意形成と組織的対応について)
3. 学校と産業界との「対話」とおした、地域が求める人材像の再整理及び継続的なカリキュラム改善と、その上での各拠点校の特色に応じた取組の推進



事業を推進する上での現状の課題と解決策、及び令和8年度以降の本県の取組の方向性も含め、発表を行います。

事業成果発表概要

① 10:40～11:00(11:00→11:15講評)

C 北海道教育委員会

テーマ

北の専門高校ONE-TEAMプロジェクト

専門高校と産業界の持続可能な連携を目的としており、

- 学科の垣根を越えた「横」のつながり
- 小中学校や企業との「縦」のつながり

の両面から、専門高校の連携を推進しています。



これまで、

- 専門高校卒業生がDXを活用して働く姿を紹介する「おしごとガイドブック」の制作
- 産学連携の意義等を共有する「産学連携シンポジウム」の開催
- 専門高校への理解を深める「職業学科理解推進ガイド」の発行
- 半導体などの先端技術への理解を深める教員研修

などに取り組んでできました。こうした取組や成果について発表します。

D 新潟県教育委員会

テーマ

次世代の水産業・農業を担うプロフェッショナルの育成

拠点校・普及対象校の取組

生徒の基礎的・汎用的能力や関連業種への進路意識を高める効果が認められた海洋高校の産学官連携のノウハウを、同地域にある高田農業高校に対し、両校が協働して行うなど「TAN-KY(探究)プロジェクト」を通じて普及させる。

1. 有機肥料製造と有機農業の実践
2. アクアポニックスの共同運用
3. 新潟オリジナル柿の葉寿司の開発

産業界等と専門高校等の連携体制構築の取組

- マイスター・ハイスクール運営委員会の設置
- マイスター・ハイスクール推進委員会の設置
- マイスター・ハイスクールCEOの配置 等



事業成果発表概要

① 10:40～11:00(11:00→11:15講評)

E 埼玉県立大宮工業高等学校 × 埼玉県/埼玉県経営者協会/埼玉県教育委員会

テーマ 新たな社会(Society5.0×DX時代)を支える次世代マイスターの育成

本校では、「産業界と専門高校が一体となった」取組みを通じて、「新たな社会を支えることができる生徒」の育成に努めています。これまで埼玉県経営者協会や県の機関等と連携し、「生徒が生きていくための学び」や職業観、キャリア意識を育成するため、以下のような活動を行ってきました。

- 共通教科と専門教科をつなぐことで、思考を深める授業を実施
- 企業40社参加の進路フェア、企業見学会など偶発的かつ多様な出会いを創出
- 埼玉県環境科学国際センター研究者や熊谷保健所との協働研究活動の実施
- 県特別支援学校と協働して、ものづくりを通じたインクルーシブ教育の推進
- 企業の社員研修を活用し、トラブルシューティングの体験の提供。

また、事業期間の終了に伴い、生徒の学びや成長を発表する「マイスター・ハイスクール事業 生徒発表会」を開催しました。発表会では、上記の取り組みのほか、事業期間中の生徒の変化や自走・普及活動についてもお伝えしたいと思います。



② 11:20～11:40(11:40→11:55講評)

A 清和学園高等学校 × 東日本電信電話会社埼玉事業部埼玉西支店/
越生町/学校法人一川学園

テーマ SX人材育成モデル構築の2年目

本校のMHS事業では自動車科、調理科の生徒が地元越生町の地域課題解決を目指すことで各種の能力、スキルを獲得するというSX人材育成モデルの構築に取り組んでいます。

自動車科、調理科の各科が最新／専門技術を学ぶとともに、越生町について学び、地域課題の解決に向けた授業・プロジェクトに取り組んだ様子と、それらがどのような能力／スキルを育成するのか発表します。

- 自動車科 : 自動車産業と連携したCASE体験授業とゼロカーボン問題への取組
- 調理科 : 6次産業化企業による特別授業と特産品を活用したレシピ、商品開発



事業成果発表概要

② 11:20～11:40(11:40→11:55講評)

B 長崎県教育委員会 長崎県立高等学校(15校)

連携する産業界関係団体

- 農業：長崎県農業協同組合中央会
- 工業：長崎県工業連合会、ながさき半導体ネットワーク
長崎県建設業協会、長崎県情報産業協会
- 商業：長崎県商工会議所連合会
- 情報：長崎県情報産業協会
- 水産：長崎県漁業協同組合連合会
- 福祉：長崎県社会福祉協議会

農業経営課、農業イノベーション推進室
企業振興課、未来人材課
建設企画課、新産業推進課
観光振興課、経営支援課
新産業推進課
水産経営課
長寿社会課

テーマ

NEXT長崎人材育成事業

長崎県では、令和6年度より、地域の未来を担う産業人材の育成に向け、高校のカリキュラムと産業界の教育力をつなげた「学びの連携」を軸として、産業界、専門高校、行政が協働するNEXT長崎人材育成事業に取り組んでいます。

本県では、県全体を包括した産学官の連携体制の構築を目指し、

- 県内専門高校15校(農業・工業・商業・情報・水産・福祉)への連携導入
- 分野ごとの産業界・県関係部局との連携
- 長崎型産学連携コーディネーターとして、3名を県教育庁に配置(民間経験者、校長経験者、知事部局職員)
- 事業運営委員会および分野ごとの協議会の設置
- 県レベルの人材育成方針の共有



など、組織的・持続的な連携体制づくりを進めています。

県全体を包括した連携体制の成果と課題について発表します。

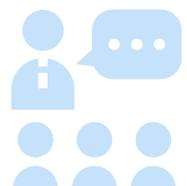
C 山形県教育委員会 山形県立高等学校(15校)

テーマ

魅力ある県立高校づくり推進事業
～フューチャープロジェクトの取組～

令和5年度から、自治体・産業界・大学等で構成する協議会(コンソーシアム)を全ての県立産業系高校に設置し、地域のニーズを踏まえた教育課程の開発や地域産業界との連携・協働による特色化・魅力化を図ることとし、本事業で以下の取組を実施している。

- 地域産学連携コーディネータを県内4地区に配置
- 産業教育連携校会議及び研修会の開催
- 各産業の次世代分野(AI・IoT・UAV・ロボティクス)研修の実施
- 産業現場実習や長期研修(インターンシップ)の実施



本日は、事業一年目の成果と課題について発表します。

事業成果発表概要

② 11:20～11:40(11:40→11:55講評)

D 宮城県教育委員会 宮城県立加美農業高等学校

テーマ 「産業界をリードするアグリテックエンジニアの育成」事業スタート

本校では、「産業界をリードするアグリテックエンジニアの育成」をテーマに、農業、工業、特に自動車分野において活躍できる生徒の育成に向け、来年度までの2年間、取り組んでいきます。

- 産業実務家教員による、「獣害対策」「電気自動車」「スマート農業」の指導
- 地域産業や東北大学等の上級学校との連携、協働学習
- 「箱罫」とAI、IoTを組み合わせた「スマート箱罫」をブラッシュアップ

特に箱罫については、昨年度のアグリテック甲子園2023で最優秀賞とテクノロジー賞を受賞した実績を活かし、関係機関との連携体制を強化しつつ、製品のブラッシュアップを進めています。スタートして間もない事業ですが、現段階までの進捗状況を発表します。



E 三重県教育委員会 三重県立高等学校(4校)

テーマ とびだせ！はばたけ！みえふくっ子！ ～みえの次代を担う福祉系人材の育成～

本県では産業界の協力を得ながら、課題解決型学習をとおして、広い視野と柔軟な考え方や実践力を身に付けた福祉系人材を育成するため福祉系高校4校が連携して取り組んでいます。

- 4校の連携体制を強化する生徒交流会の実施
- 明野高校 : 「明野ふくしゼミ」で課題解決型学習を実施
- みえ夢学園高校 : 介護の実践力を育む教材を開発
- 朝明高校 : 地域との交流による課題解決型学習を実施
- 伊賀白鳳高校 : 社協等と連携して子どもや高齢者が抱える課題解決に向けた学習

今年度の取組により、生徒の学習意欲の向上、意識の変革などの成果が表れています。今回は現状と課題、来年度の展望について発表します。

事業成果発表概要

③12:55～13:15(13:15→13:30講評)

A 仙台市立仙台工業高等学校 × 宮城県情報サービス産業協会/
仙台市/仙台市教育委員会

テーマ

「働きたい街 SENDAI」を目指して

本校では来春、情報科開設に向けて準備を進めています。既存学科の学びに応じたデジタル技術等の習得を軸に、地元で活躍できる人材育成を目指しています。

- 情報科の教育課程の編成と自走後、学校と関連団体等との関わり方について関係者で年間80時間程度協議中

～以下、全学科での産業実務家教員との連携による実践(年間320時間)～

- 地元企業の魅力や学習成果を聞き手に伝えるプレゼン能力の育成
- 工業情報数理での基礎的なプログラミング学習
- 課題研究での様々な課題を自主的に解決できる指導
- 各学科に関連する最先端技術等の体験・見学(企業・大学施設)
- 学科横断の協同型学習としてのEVカートの製作
- 学んだ知識技能や資格を活用した地域貢献による学びとその先の接続



地元企業や地域の魅力を伝え、就労に繋げる取組や自走化を目指し、関係団体との連携や今後の取組について発表します。

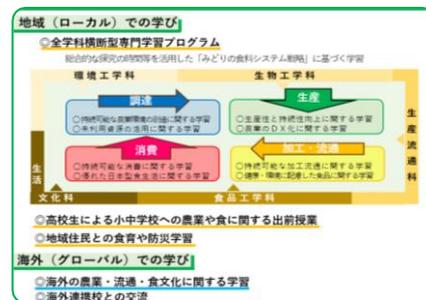
B 宮崎県教育委員会 宮崎県立宮崎農業高等学校

テーマ

持続的な食料システムを担う次世代リーダーの育成
～『みどりの食料システム戦略』を基盤とした学習プログラムの構築を目指して～

本校は農業に関する4学科と家庭に関する学科を併設しており、令和6年度は生徒と職員にアンケート調査を実施し、実態を把握した上で下記について取り組みました。

1. これまでの産業界との連携内容を整理し、産業界と連携した新たな学習の推進
2. 「みどりの食料システム戦略」を基盤とした学科横断型学習プログラムの構築
3. 農業高校の特色を活かした商品開発研究
4. 海外の農業・食生活文化に関する学習や海外姉妹校交流の準備



事業成果発表概要

③12:55～13:15(13:15→13:30講評)

C 兵庫県教育委員会 兵庫県立姫路工業高等学校

テーマ

カーボンニュートラルへの挑戦！ ～蓄電池業界を牽引するゲームチェンジャーの育成～

蓄電池産業界を中心に、カーボンニュートラルを背景とした産業人材育成モデルの創出に取り組んでいる。具体的には、関西蓄電池人材育成等コンソーシアムと連携し、バッテリー教育プログラムの実践を行った。座学で使用する教材は興味を持たせるきっかけとし、産業技術総合研究所での小型蓄電池製造実習を併用することで、より関心を高めている。また、蓄電池製造メーカーと連携し、工場見学を通して現場を実感し、進路選択の可能性が広がる取組を行っている。さらには、企業との共創による取組として、エネルギーの自給自足を目指し、ものづくりに取り組んでいる。

- 座学教材の活用(バッテリー教育プログラム、工業化学科・機械科・溶接科)
- 実習教材の活用(バッテリー教育プログラム、工業化学科・機械科)
- 工場見学(工業化学科・機械科)
- 産業界と大学による特別授業(産業界4時間、大学16時間程度)
- 共創によるものづくり(課題研究、全学科)
- 若手教員育成(共創共育)
- 連携校(兵庫県立洲本実業高等学校)の取組



以下のものを計画中

- 特別実習と特別講演会の実施
 - 地域産業人材育成特別実習
- 等の取組を行いながら、来年度に向けた準備は万全の態勢で進んでいることを発表します。

D 北海道厚岸翔洋高等学校 × 厚岸町/厚岸漁業協同組合/北海道教育委員会

テーマ

地域の未来を創るマリン・イノベーターの育成

本校では、未来を創るマリン・イノベーターの育成をテーマとして、IT技術を活用した「スマート水産業」に関わる実践を通して、地域の資源管理型漁業の推進に寄与するとともに、地域産業の持続的な成長を牽引する最先端の職業人の育成を目指して取り組んでいます。

これまで、町や漁協をはじめ、企業等との連携のもと、

- 沿岸の水温・流速・有害プランクトンをモニタリングできる機器を活用し、資源管理型漁業の推進に資する取組
- 空中ドローンや水中ドローンを活用して海の見える化を推進し、漁場環境の向上に資する取組
- 未利用・低利用魚の有効活用や新商品の開発を通して、地元水産物の高付加価値化に資する取組



などを実施してきました。各取組の成果とともに今後の方向性について発表します。

事業成果発表概要

③12:55～13:15(13:15→13:30講評)

E 愛知県教育委員会 愛知県立古知野高等学校

テーマ

DX時代をリードする高度介護人材の育成
～愛知から始まる高校福祉の新潮流～

本校では、「DX時代をリードする高度介護人材の育成 - 愛知から始まる高校福祉の新潮流-」をテーマに、生徒の「テクノロジーを活用する力」「情報活用能力」「他者と協調・協働する力」「課題解決能力」の育成に取り組んでいます。

これまで、11の企業・法人・地域福祉団体と連携し、「科学的介護」をテーマにした授業や、課題解決型学習「KOCHINO PBL」を実践してきました。また、産学連携の成果を広げるためにSNSを効果的に活用するとともに、公開授業も実施しています。これらの取り組みを通じ、地域社会との新たなつながりが生まれつつあります。本発表では、この1年間の成果と課題を振り返り、今後の展望をお伝えします。



④13:35～13:55(13:55→14:10講評)

B 静岡県 学校法人沼津学園飛龍高等学校

テーマ

自動車産業の将来を担う産業人材の育成とSTEAM教育の実践

本校では、生徒がEV(電動化)や脱炭素など、新たな技術の変化に対応できる産業人材の育成に取り組んでいます。

今年度からスズキ(株)等との連携のもと、

- 次世代自動車(EV/燃料電池)を学ぶことができる教育課程を開発
- 産学連携コーディネータによる「自動車工学Ⅰ」(週1回)の指導
- スズキ(株)工場での実地研修、専門大学校での校外研修
- 普通科にSTEAM系列の教育課程の編成(自動車に関する学習)
- 産学連携を目的とした成果発表会の開催

などを行い、専門知識・技術の高度化とともに教科横断型思考の習得という成果が出始めてきました。事業1年目の取組を発表します。



事業成果発表概要

④13:35～13:55(13:55→14:10講評)

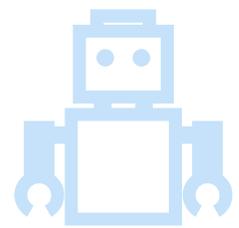
D 静岡県立浜松城北工業高等学校 × ヤマハ発動機株式会社/
浜松市/静岡県教育委員会

テーマ

スパイラルアップする組織力でロボティクス人財の育成
～3年目の歩み～

最終年度である3年目は管理機関と共に自走について協議を繰り返してきました。本年度は新しい校内分掌としてマイスターハイスクール推進課を立ち上げました。成果は下記の通りです。

- 学校設定科目「ロボティクス実習」「ロボティクス概論」
- 各科連携の課題研究ーロボットテーマ
- MH事業版ー海外インターンシップ
- MH成果発表会-副市長、自治体、地元企業が来賓として参加
- 生徒が企業と直接触れる機会を創造する「Jタイムス」



などの取組を報告すると共に4年目の自走における課題についても発表します。

